

神奈川県外国人観光客実態調査（平成 30 年度）概要

調査目的

外国人観光客の神奈川県への来訪実態を把握し、戦略的なプロモーション及び受入環境整備に係る施策立案のための基礎資料とする。

調査期間

平成 30 年 10 月～平成 30 年 12 月

調査場所

羽田空港、横浜・鎌倉・江の島・箱根の観光施設及び県内宿泊施設等

調査方法

ヒアリング又は留め置きによる調査

回答者数

1,995 人

結果概要

訪問地について

- ・県内で訪問者数の多い地域は順に箱根、鎌倉、横浜、江の島となった。
- ・箱根は、イギリス・オーストラリア、鎌倉は、フランス・中国、横浜は、韓国、江の島は中国・台湾からの訪問が比較的多い。
- ・訪問回数は、「5 回目以上」では、特に台湾、韓国、香港といった近距離である東アジアの国・地域が多かった。一方で、ヨーロッパ、北米といった遠距離の国では、「初めて」の回答が多かった。
- ・横浜、箱根起点の場合は県内の様々な地域に訪れる傾向にあるが、鎌倉、江の島、小田原起点の場合は、隣接する地域に移動する傾向にある。特に、鎌倉と江の島は顕著に出ている。

ニーズについて

- ・県内を訪れる人の約半数は自然観光が目的。
- ・旅行中に受入環境で満足した点は「交通アクセス」、「店員・係員の言語力」、「案内板・施設・店舗での言語表記」。
- ・受入環境で不満に感じた点は「店員・係員の言語力」、「施設・店舗の利用可能時間」、「案内板・施設・店舗での言語表記」。
- ・通信手段は、モバイル Wi-Fi、無料公衆 Wi-Fi、SIM カードの順で多くの利用であった。

移動について

- ・交通手段については、鉄道、路線バスが全体の約 7 割を占めた。
- ・交通パスの利用では、IC カード、JAPAN RAIL PASS、箱根フリーパスの 3 種類の使用が多い結果となった。

※詳細につきましては、調査報告書をご確認ください。

活用方法

<調査結果>

旅行形態が個人旅行の割合が 88.8%を占める

「店員・係員の言語力」が不足

<活用方法>

神奈川県観光魅力創造協議会における 1000 本ツアーの造成と魅力的な観光箇所の紹介

多言語コールセンターによる電話通訳サービスの周知を図る。

